

諏訪の景気動向

2021年2月

(2021年1月末D・I調査)



釜口水門 (岡谷市)

《2021年2月25日》

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-23-8044

諏訪地方の景気動向（2021年1月調査）

「2021年1月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 197 社のご協力を得て行った 2021 年 1 月の「景気動向調査(DI調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIが△12.2 だった。前回調査時(2020 年 10 月末、以下同)の 15.8 から 28.0 ポイント悪化した。経済活動が再開した時期だった前回調査の 10 月に比べ、新型コロナウイルスの感染が再拡大中の今回は一転して、マイナス水準に逆戻りした。「3 ヶ月前」と比べた製造業の業況判断DIは 2.4 で、前回の 9.5 から悪化した。非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも△38.0 で、前回の 26.7 から大幅に悪化した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは製造業が 5.5(前回 1.5)と改善し、非製造業も△11.3(前回△15.5)とやや改善して、回答全社では△0.5(前回△4.5)となった。

2021 年は、新型コロナウイルスの感染が再拡大する局面での幕開けとなった。感染拡大に歯止めがかからず、政府は観光需要喚起策の GoTo トラベルを全国一斉停止し、年明けには緊急事態宣言を発令した。長野県でも医療非常事態宣言が出された。中国経済回復などの影響で製造業にはやや明るさが見られ、「巣ごもり需要」も堅調だが、宿泊や飲食関連業種は大きな打撃を受けた。米国では、バイデン氏が大統領に就任した。

製造業は、「3 ヶ月前」との比較で、業況は 25.4%の企業が好転し、23.0%の企業が悪化した。前回より好転、悪化とも減少し、横這いの企業が増加している。大幅な悪化が続いていた「前年同期比」の業況判断DIは、前回の△58.8 から△33.3 と依然水面下ながら、改善傾向となりつつある。受注状況DIは「3 ヶ月前」に比べて前回の 11.9 から 4.7 とやや悪化した。プラス水準を維持した。「前年同期比」では前回の△66.7 から△33.4 へ改善している。前回改善した収益性DIは「3 ヶ月前」に比べ、前回の△1.6 から△2.3 へ悪化した。企業間格差はあるものの、総体的には改善傾向に向かっている。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、前回の 1.5 から 5.5 へ改善し、好転予想の企業が、悪化予想の企業を上回っている。

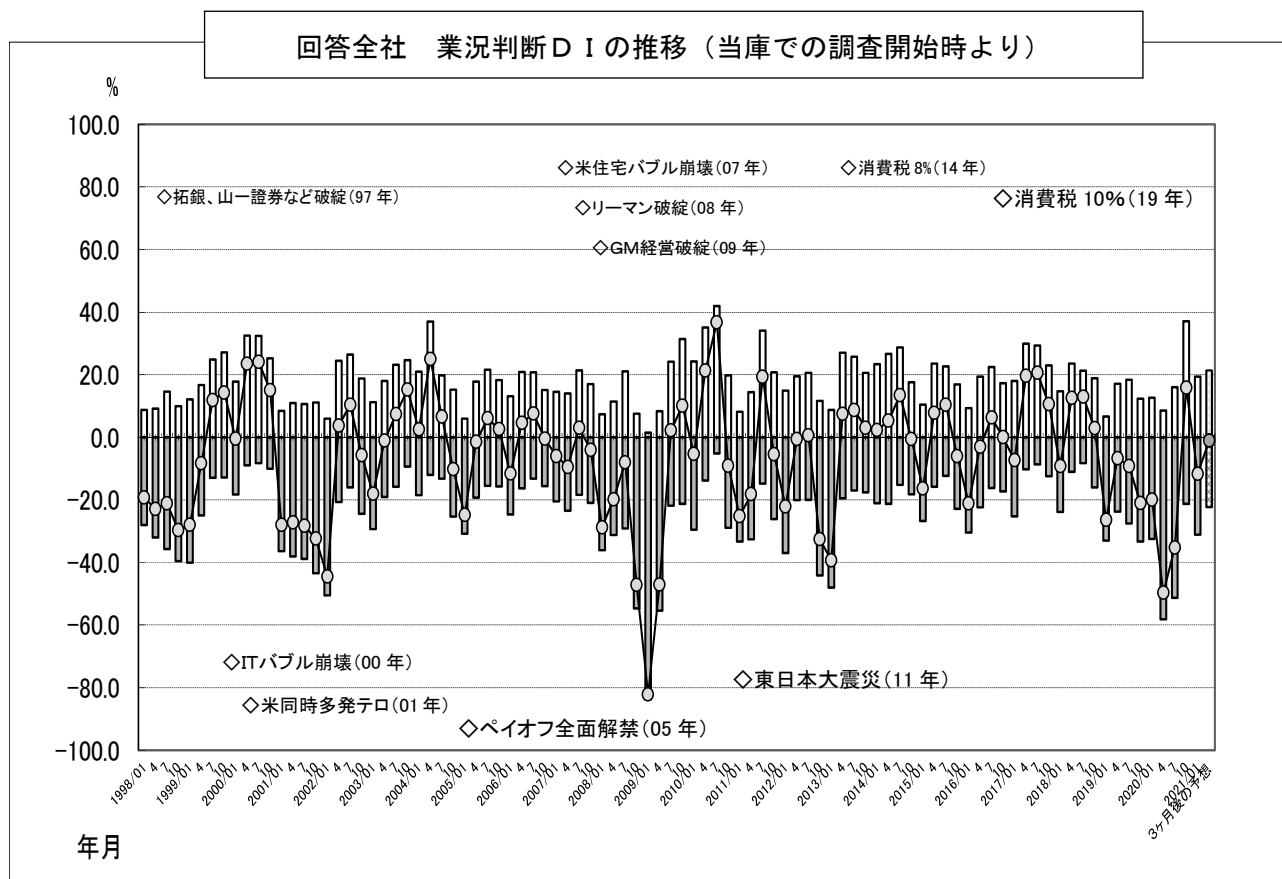
商業は、経済活動再開の動きがあった前回に比べ、大きく落ち込んだ。「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは△42.4 で、前回の 23.5 から悪化し、再びマイナス水準となった。来店客数DIは前回の 23.6 から△54.5 と悪化した。「前年同期比」では、業況判断DIが前回の△29.4 から△54.6、来店客数DIは前回の△44.1 から△63.7 と悪化幅が広がった。新型コロナウイルス感染再拡大の影響は、業種によって明暗が分かれるが、総体的に「密」に対する消費者心理が悪化し、回復しつつあった収益に急ブレーキがかかった。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、好転が 27.3%で、悪化は 30.3%の△3.0 だった。DI値は前回と同率だが、好転、悪化とも予想企業数が約 10%ずつ前回より増加し、先行きの見方も明暗が分かれている。

観光・サービス業は、GoTo トラベルの全国一斉停止と緊急事態宣言が大きく影響し、低調な宿泊予約とキャンセルが続いた。「3 ヶ月前」と比べて、前回 53.8 だった宿泊客数DIは今回△78.6 と大幅悪化し、業況判断DIは前回の 76.9 から△50.0 となった。「前年同期比」の業況判断DIも、前回は△38.5 だったが、△71.5 へ悪化した。観光業は他業種に比べて特に落ち込み幅が大きい。前回調査時は持ち直しかけたものの、再びの悪化となり、休館を余儀なくされる宿泊施設も増えた。新型コロナウイルス発生から影響が長引き、企業の体力が落ち

てきている。それでも春の観光シーズンを迎える「3 ヶ月後」の業況判断予想DIは△21.5 で、水面下ながら前回の△53.8 から改善している。

建設業は、「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは△25.0 で前回の 4.2 から悪化した。受注状況DIも△29.2 で前回の△4.1 から悪化している。「3 ヶ月後」の業況予想DIは△16.6 で、前回の△12.5 から悪化した。諏訪地方の2020 年 12 月の新設住宅着工戸数は 59 戸で、前年同月比 63 戸減少(△51.6%)した。2020 年 4 月～12 月の累計着工戸数は 762 戸で、前年同期比 134 戸減少(△14.9%)した。2020 年 1 年間の累計着工戸数は 1,004 戸で前年比 143 戸減少(△12.4%)した。2021 年 1 月の市町村からの受注工事は合計 41 件 186 百万円で、前年同月比で 16 件減少し、契約金額は 488 百万円減少した。2020 年 4 月～2021 年 1 月に地元業者が受注した国県関係の公共工事の累計は 126 件 6,663 百万円で、前年同期より 26 件 743 百万円減少(△10.0%)した。

雇用状況は、2020 年 12 月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を 0.28 ポイント下回り、前月を 0.06 ポイント上回る 1.13 倍だった。1 倍台は 81 ヶ月連続で維持しているが、前年同月は 21 ヶ月連続で下回った。長野県内は 1.18 倍だった。全国は前月比横ばいの 1.06 倍で、完全失業率も横這いの 2.9%だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が 1,510 人で前年同月比 25 人減少(△1.6%)し、新規求職者数は 706 人で前年同月比 14 人増加(2.0%)している。産業別の前年同月比の新規求人数は、その他のサービス業が 61.9%、医療・福祉業が 28.4%増加したが、飲食店・宿泊業で 61.6%減少した。1 件 10 人以上の人員整理は 2 件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は 51 人で、前年同月より 11 人増加し、前月より 33 人増加した。



新型コロナウイルス感染拡大の諏訪地方への影響

回答全社は「3ヵ月前」に比べ、86.8%の企業が「多大」または「多少」の影響とした。巣ごもり需要など、一部特需もあるが、諏訪地方の企業にとってはマイナス影響が強い。特に観光業は「多大」85.7%、「多少」14.3%で、100%の企業が影響を受けたとしている。帰省や旅行、宴会など年末年始の需要がほとんどなくなり「これまでにない緊急事態」として温泉旅館協同組合が自治体へ支援要望する動きもあった。飲食業も深刻で、長野県は緊急事態宣言の対象外だが、団体客が見込めない上、夜の利用客が減少した店が多く、早めの閉店を余儀なくされた。飲食店への納入業者にも影響が及んだ。「3ヵ月後」は製造業で「多大」とする企業が27.0%、「多少」が64.3%、非製造業も「多大」29.6%、「多少」63.4%で、依然影響が強いとみている。回答全社では、91.9%が「多大」または「多少」の影響が続くとみている。

産業別業況表

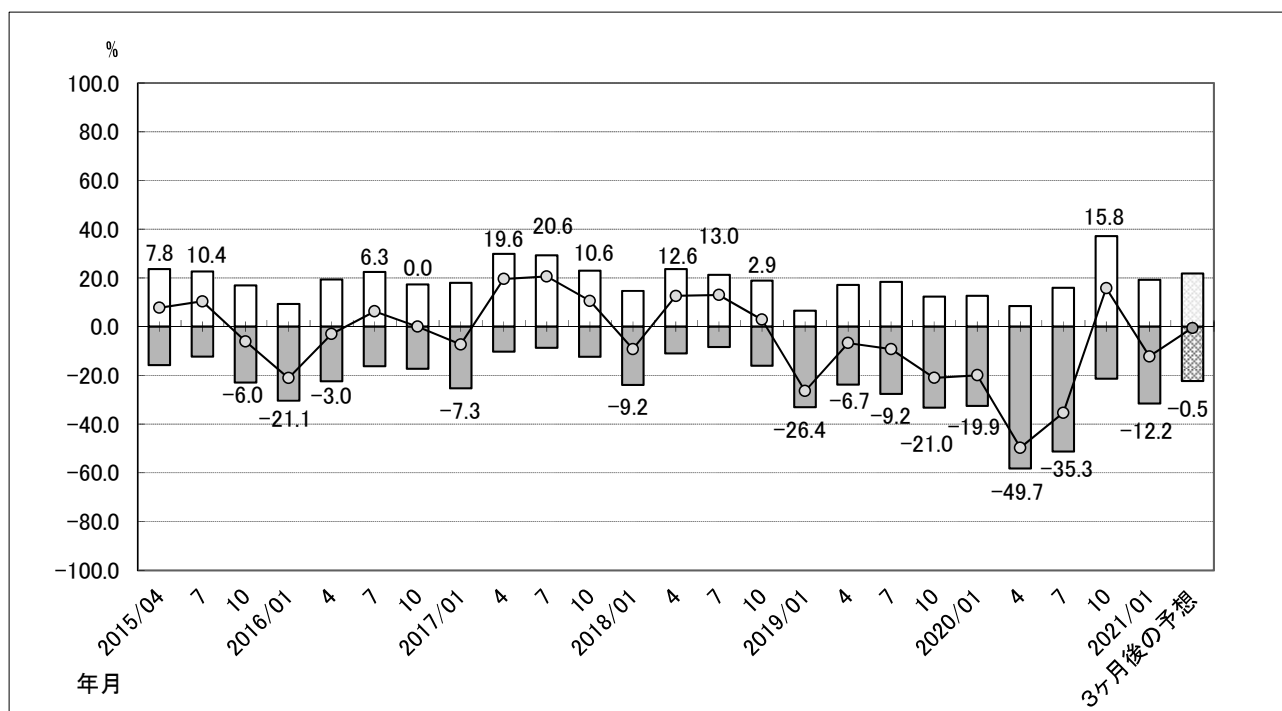
(企業数・%) 表-1

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全 体	197	19.3	49.2	31.5	-12.2	197	12.2	37.1	50.8	-38.6	197	21.8	55.8	22.3	-0.5
製造業	126	25.4	51.6	23.0	2.4	126	15.9	34.9	49.2	-33.3	126	23.8	57.9	18.3	5.5
非製造業	71	8.5	45.1	46.5	-38.0	71	5.6	40.8	53.5	-47.9	71	18.3	52.1	29.6	-11.3
商 業	33	9.1	39.4	51.5	-42.4	33	3.0	39.4	57.6	-54.6	33	27.3	42.4	30.3	-3.0
建設業	24	4.2	66.7	29.2	-25.0	24	8.3	58.3	33.3	-25.0	24	4.2	75.0	20.8	-16.6
観光・サービス	14	14.3	21.4	64.3	-50.0	14	7.1	14.3	78.6	-71.5	14	21.4	35.7	42.9	-21.5

自社業況判断DIの推移

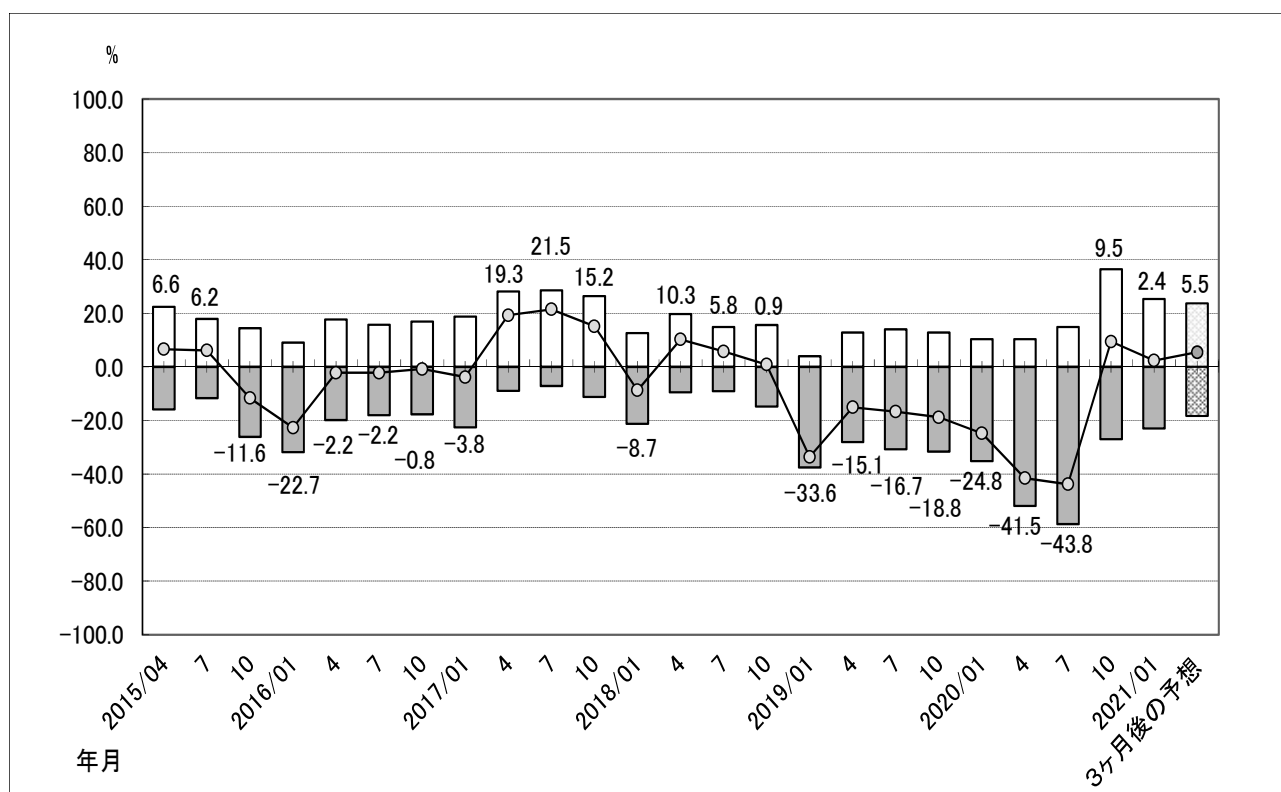
回答全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



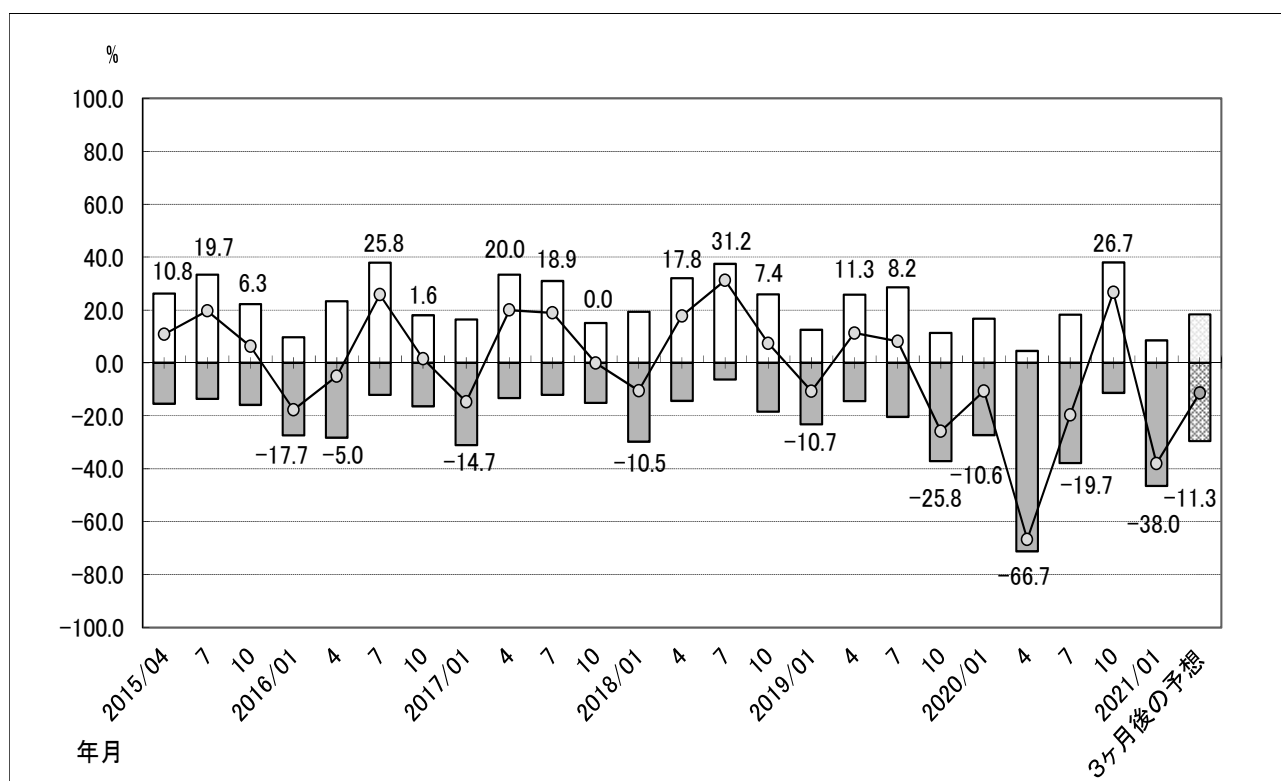
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1.製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ 2.4 で、前回の 9.5 から悪化した。「前年同期比」は、△33.3 で前回の△58.8 から改善した。「3ヵ月後」の予想も 5.5 で、前回の 1.5 から改善した。

設備投資DIは、「3ヵ月前」に比べ 4.7 で前回の△2.4から改善した。「前年同期比」も前回の△17.5から△2.4へ改善した。「3ヵ月後」の予想DIも 7.2 で、前回の 4.8 から改善している。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で△2.3 と前回の△1.6 から 0.7 ポイント悪化した、「前年同期比」は前回の△50.0 から△21.4 へ 28.6 ポイント改善した。「3ヵ月後」の予想は△1.6 で、前回の△2.4 から改善した。

業種別(主要 5 業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「金属製品」は 14.3 (前回 5.8)、「電気機械」が 12.5(同△4.3)、「精密機械」が 27.3(同 7.2)と改善したが、「一般機械」が△10.3 (同 3.5)、「輸送用機械」は 9.1 (同 69.2)と悪化した。

「前年同期比」では、「金属製品」が△45.7(前回△73.5)、「輸送用機械」は△18.2(同△46.1)、「電気機械」は△25.0(同△39.2)、「一般機械」は△20.7(同△60.8)と改善したが、「精密機械」は△72.7(同△64.3)と悪化した。

「3ヵ月後」の予想DIは「金属製品」は 17.2(前回△2.9)、「一般機械」は 3.4(同 0.0)、「電気機械」29.1(同 0.0)と改善したが、精密機械△27.3(同 14.3)、「輸送用機械」が△36.4(同 7.7)で悪化した。

製造業は、自動車メーカーの生産回復が輸送用機械をはじめ、一般機械や金属製品などに及び、メーカーからフル操業態勢を要請されている企業もある。ただ、新型コロナウイルスによる海運業界の停滞で、材料供給が安定していない。また、半導体関連は幅広い分野で需要が拡大し、製造装置の動きも活発化しているが、世界的な半導体不足が各種生産に影響を及ぼしている。総体的には、売上計画をコロナ禍の昨年対比ではなく、一昨年対比で組み立てるまで回復した企業もあり、回復傾向となっている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業	好転	横這	悪化	DI	回答 企業	好転	横這	悪化	DI	回答 企業	好転	横這	悪 化	DI
製造業		126	25.4	51.6	23.0	2.4	126	15.9	34.9	49.2	-33.3	126	23.8	57.9	18.3	5.5
規 模	1～29人	70	20.0	50.0	30.0	-10.0	70	8.6	37.1	54.3	-45.7	70	22.9	57.1	20.0	2.9
	30～99人	41	31.7	51.2	17.1	14.6	41	26.8	29.3	43.9	-17.1	41	29.3	56.1	14.6	14.7
	100人～	15	33.3	60.0	6.7	26.6	15	20.0	40.0	40.0	-20.0	15	13.3	66.7	20.0	-6.7
中 分 類	金属製品 製造業	35	31.4	51.4	17.1	14.3	35	8.6	37.1	54.3	-45.7	35	34.3	48.6	17.1	17.2
	一般機械 器具製造業	29	20.7	48.3	31.0	-10.3	29	20.7	37.9	41.4	-20.7	29	24.1	55.2	20.7	3.4
	電気機械 器具製造業	24	29.2	54.2	16.7	12.5	24	25.0	25.0	50.0	-25.0	24	33.3	62.5	4.2	29.1
	輸送用機械 器具製造業	11	18.2	72.7	9.1	9.1	11	18.2	45.5	36.4	-18.2	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
	精密機械 器具製造業	11	36.4	54.5	9.1	27.3	11	9.1	9.1	81.8	-72.7	11	0.0	72.7	27.3	-27.3

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて14.3で、前回調査時の5.8から改善した。「前年同期比」は△45.7で前回の△73.5よりやや改善した。「3ヵ月後」の予想は17.2で前回の△2.9から改善した。自動車や半導体関連部品の表面処理や各種製造機械装置の部品の受注が増加している。ただ、企業間に差があり、受注対応で外注を増やす企業の一方で、休日を設定する企業もある。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて△10.3で、前回の3.5から悪化したが、「前年同期比」は△20.7で、前回の△60.8から改善した。「3ヵ月後」の予想は3.4で、前回の0.0から改善している。コロナ禍でふとんの洗濯への関心が高まり、業者向けやコインランドリー向けのクリーニング機械の需要が高まっている。設備投資関連も動き始めているが、緊急事態宣言で対面営業ができず、首都圏からの受注の減少を懸念する企業がある。半導体関連は動きが活発で、製造装置の部品の受注は、しばらく増加が続く見込み。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて12.5で、前回の△4.3から改善し、「前年同期比」は△25.0で前回の△39.2から改善した。「3ヵ月後」の予想は29.1で前回の0.0から改善した。5G関連の光通信基地局部品の受注は増産が続く。半導体関連は車載用、スマホなど需要が拡大しているが、材料不足もある。携帯電話関連は、大手が発表した格安料金プランで業界の収益悪化が懸念され、コストダウン要請が強い。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて9.1で、前回の69.2から悪化したが、「前年同期比」は△18.2で、前回の△46.1から改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は△36.4で、前回の7.7から悪化した。自動車部品関連は総体的に回復傾向で、急激な増産要請を受けている企業があるが、材料の供給が安定せず足を引っ張っている。EV関連の新規受注が増加する一方で、半導体の調達遅れが生産台数に影響している。自転車部品は欧州向けが好調を維持している。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて27.3で、前回の7.2から大幅に改善したが、「前年同期比」は△72.7で前回の△64.3より悪化した。「3ヵ月後」の予想は△27.3で前回の14.3から悪化した。医療関連やATM監視カメラなどの高性能レンズの受注は堅調。高級カメラはメーカーによって差がある。圧力計も動き出し、医療用圧力計の需要が多い。通信機器や半導体検査装置の光ファイバーコネクタも増加している。

②規模別業況

業況判断DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29人」規模は前回の4.6から△10.0へ悪化し、「30～99人」規模は前回の0.0から14.6へ改善した。「100人以上」規模は前回の52.9から26.6へ悪化した。「前年同

期比」は「1～29 人」規模が前回の△57.0 から△45.7 へ改善し、「30～99 人」規模も前回の△65.9 から△17.1 へ改善した。「100 人以上」規模も、前回の△47.0から△20.0へ改善した。一方、「3ヵ月後」の予想は、「1～29 人」規模が前回の△6.1 から 2.9 へ改善し、「30～99 人」規模は前回の 6.8 から 14.7 へ改善した。「100 人以上」規模は前回の 17.6 から△6.7 へ悪化した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヵ月前」と比べた受注状況DIは「増加」企業 32.5%、「減少」企業 27.8%で 4.7 と、前回調査時の 11.9 から悪化した。「前年同期比」は△33.4 で前回の△66.7 から改善した。「3ヵ月後」の予想も前回の 1.6 から 3.2 へ改善した。

規模別の受注状況DIは、「3ヵ月前」と比べて「1～29 人企業」は△7.1 で前回の△3.1から悪化し、「30～99 人企業」は 19.5 で前回の 15.9から改善した。「100 人以上企業」は 20.0 で前回の 58.8から悪化した。「前年同期比」は「1～29 人企業」が△45.7 で前回の△73.9から改善し、「30～99 人企業」も△14.6 で前回の△59.1 から改善した。「100 人以上企業」も△26.7 で前回の△58.8から改善した。「3ヵ月後」の予想は「1～29 人企業」が 2.8 で前回の△1.5 から改善し、「30～99 人企業」も 7.3 で前回の 2.2 から改善したが、「100 人以上企業」は△6.7 で前回の 11.8 から悪化した。

業種別(主要5業種)の「3ヵ月前比」は、「金属製品」が前回の 3.0から 20.0、「精密機械」が 7.2から 9.1、「電気機械」は 0.0 から 12.5 へ改善したが、「輸送用機械」が 69.2 から 0.0、「一般機械」は 3.6 から 3.4 へ悪化した。「前年同期比」では、「輸送用機械」が△46.1 から△18.2、「金属製品」が△82.4 から△45.7、「電気機械」は△39.1 から△29.2、「一般機械」は△75.0 から△10.3、「精密機械」は△71.5 から△63.6 へ水面下ながらそれぞれ改善した。

「3ヵ月後」の予想は、「金属製品」が前回の△8.9 から 17.1、「電気機械」が 4.3 から 20.8 へ改善し、「一般機械」が 3.5 から 0.0、「精密機械」は 7.2 から△27.3、「輸送用機械」は 15.4 から△36.4 へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

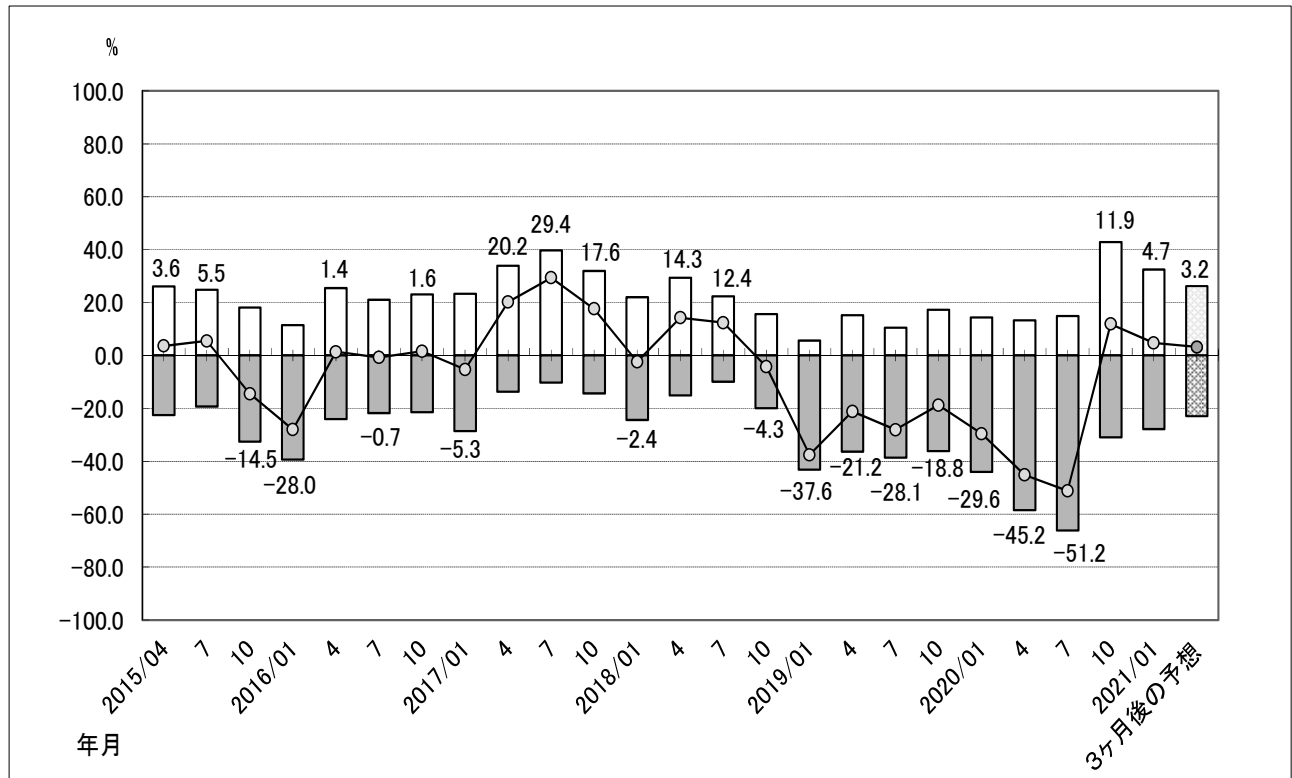
表－3

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		126	32.5	39.7	27.8	4.7	126	20.6	25.4	54.0	-33.4	126	26.2	50.8	23.0	3.2
規模	1～29人	70	24.3	44.3	31.4	-7.1	70	14.3	25.7	60.0	-45.7	70	27.1	48.6	24.3	2.8
	30～99人	41	43.9	31.7	24.4	19.5	41	31.7	22.0	46.3	-14.6	41	29.3	48.8	22.0	7.3
	100人～	15	40.0	40.0	20.0	20.0	15	20.0	33.3	46.7	-26.7	15	13.3	66.7	20.0	-6.7
中分類	金属製品製造業	35	40.0	40.0	20.0	20.0	35	14.3	25.7	60.0	-45.7	35	37.1	42.9	20.0	17.1
	一般機械器具製造業	29	31.0	41.4	27.6	3.4	29	34.5	20.7	44.8	-10.3	29	20.7	58.6	20.7	0.0
	電気機械器具製造業	24	41.7	29.2	29.2	12.5	24	25.0	20.8	54.2	-29.2	24	33.3	54.2	12.5	20.8
	輸送用機械器具製造業	11	18.2	63.6	18.2	0.0	11	18.2	45.5	36.4	-18.2	11	9.1	45.5	45.5	-36.4
	精密機械器具製造業	11	36.4	36.4	27.3	9.1	11	9.1	18.2	72.7	-63.6	11	9.1	54.5	36.4	-27.3

製造業の受注状況DIの推移

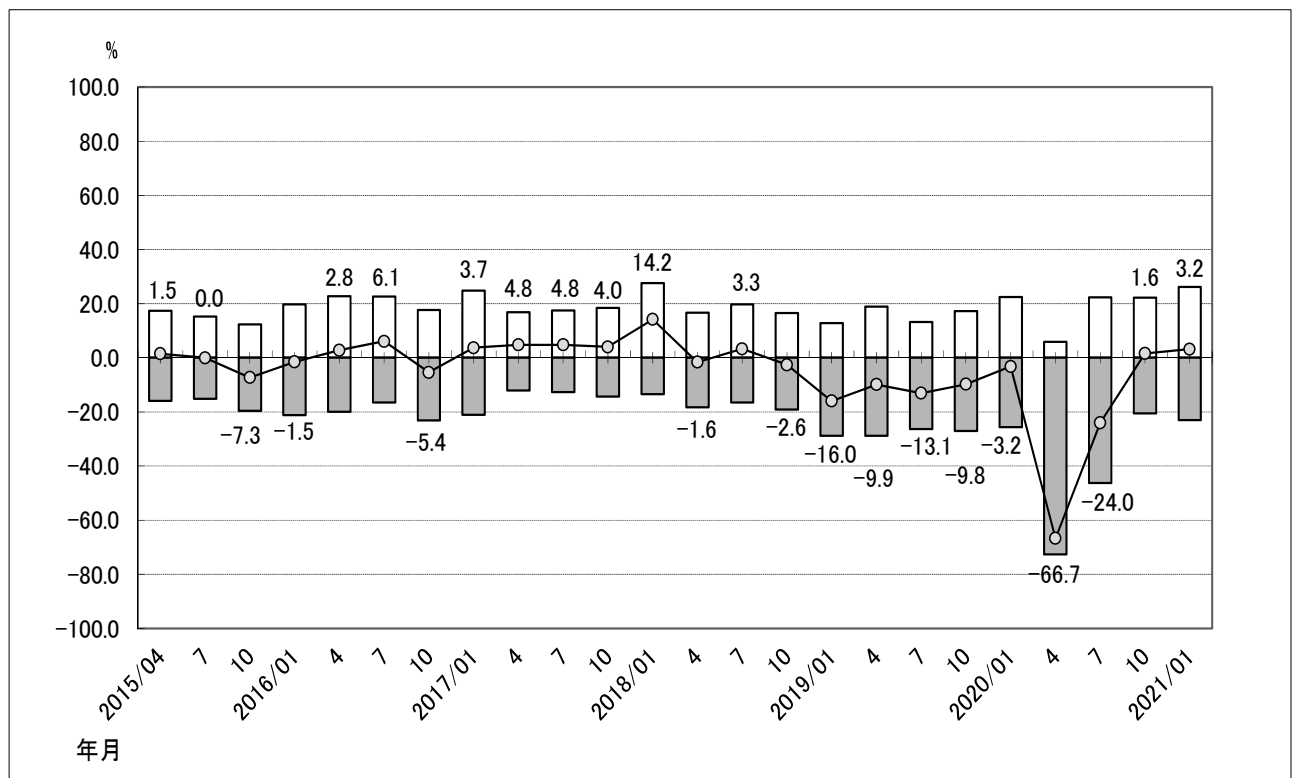
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



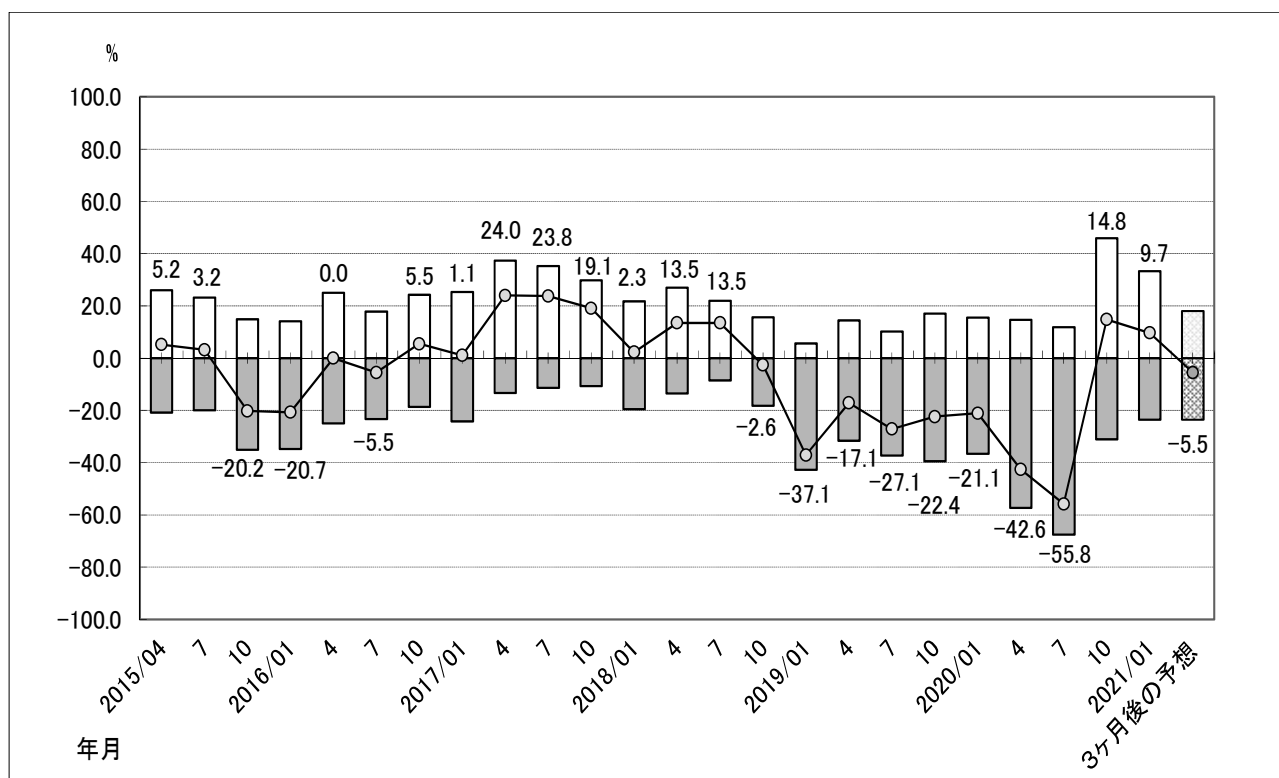
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



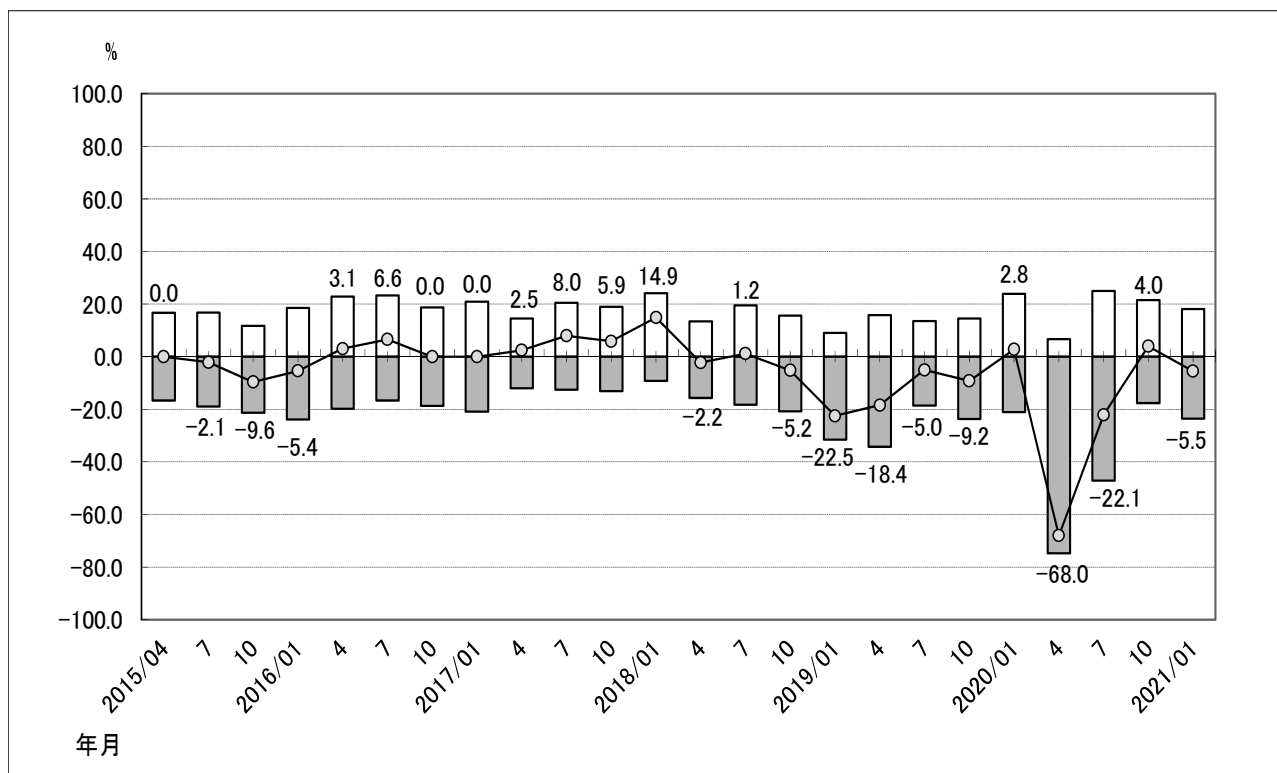
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

「3ヵ月前」との比較で、売上DIは△57.6 と、前回の 29.4 から急激に悪化した。新型コロナウイルスの影響は明暗が分かれ、「巣ごもり需要」は家電や書籍には特需となった。反面、飲食業は、帰省や観光の移動自粛や年末年始行事の中止などで、来店客は大幅に減少し、深刻な状況に陥っている。

- 大型店 前回の緊急事態宣言時と異なり、衛生用品の在庫が豊富で、消費者の備蓄もあることから、大きな消費動向の変化はない。「まとめ買い」で客単価が上昇し、売上高を維持している。
- 自動車 諏訪地方の1月の車庫証明件数(軽自動車除く)が787件で、前年同月比では69件減少(△8.1%)した。
- 書店 コミックは引き続き好調。鬼滅の刃の次に注目を浴びている「呪術廻戦」が売れ始めている。旅行ガイドブックは低調。今回の芥川賞と直木賞は話題性があり、関係作品が売れている。
- エネルギー ガソリンは移動自粛で減少傾向。ガスは宿泊や飲食など商業用の販売量が減少している。
- 家電 堅調だが、例年成人式で販売量が増加するドライヤーやアイロン、美顔器などの理美容小物は式が中止となり、低調だった。
- 飲食店 正月の宴会予約がほとんどなく、大幅に来店客数や売上が減少した店が多い。

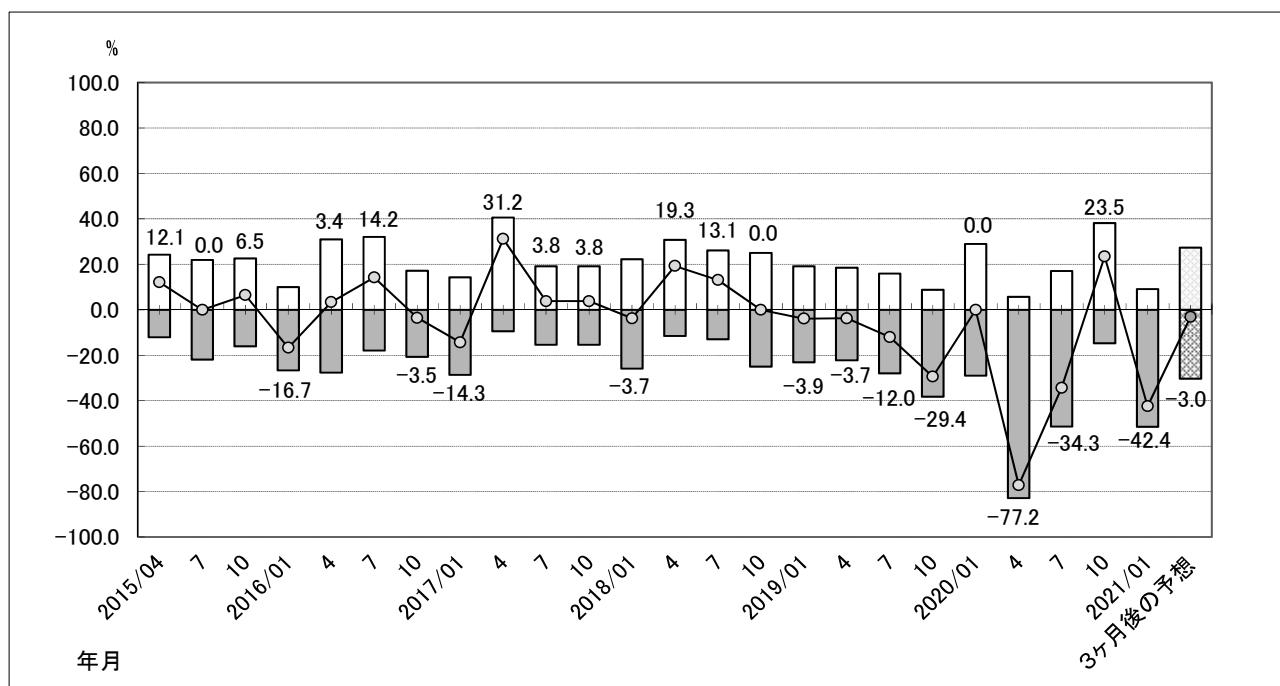
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	33	9.1	39.4	51.5	-42.4	33	3.0	39.4	57.6	-54.6	33	27.3	42.4	30.3	-3.0
客単価	33	12.1	54.5	33.3	-21.2	33	21.2	48.5	30.3	-9.1	33	21.2	66.7	12.1	9.1
来店客数	33	6.1	33.3	60.6	-54.5	33	3.0	30.3	66.7	-63.7	33	24.2	42.4	33.3	-9.1

●商業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



② 観光・サービス業

GoTo トラベルの一時停止で、帰省や遠出を自粛する動きとなり、宿泊施設などでは年末年始の書き入れ時にキャンセルが続いた。さらに年明けの緊急事態宣言で、比重が大きい東京・関東方面からの観光需要がほとんどなくなり、休館に追い込まれた宿泊施設が多い。地元観光客を対象にした観光支援策が自治体で出されたが、効果は限定的だった。諏訪湖では御神渡りが期待されたが、明けの海となった。

- 上諏訪温泉 前年同月比で宿泊人数が減少した施設がほとんど。2 月以降の集客も非常に厳しい状況が継続する見込みで、各施設は休館日を設定し、雇用調整助成金を活用しながら、緊急事態宣言解除まで凌ぐ予定。一部で3 月後半の予約は動き出している。
- 下諏訪温泉 小規模旅館で、家族単位や少人数での利用があった。
- 蓼科・白樺湖 例年、学校のスキー合宿やツアーバスの団体客が多い時期。今年はゲレンデ状態が良好だが、キャンセル続出で低調。GoTo トラベル絡みの予約が多く、一時停止の影響は大きい。売上が大幅に減少した施設が多い。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた1 月の参拝者数は約14 万2 千人で、前年同月比約25 万8 千人減少(△64.5%)した。

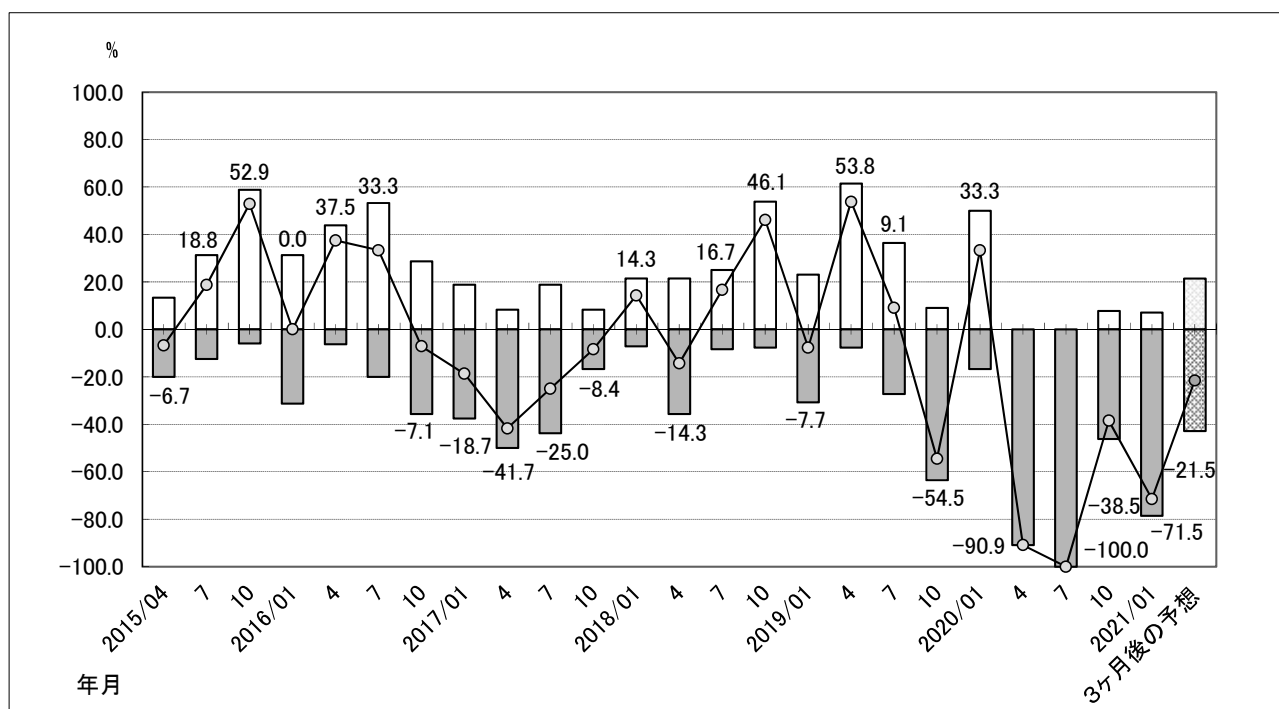
業況、売上、宿泊客

表－5

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業 況	14	14.3	21.4	64.3	-50.0	14	7.1	14.3	78.6	-71.5	14	21.4	35.7	42.9	-21.5
客単価	14	7.1	35.7	57.1	-50.0	14	0.0	35.7	64.3	-64.3	14	21.4	42.9	35.7	-14.3
宿泊客数	14	7.1	7.1	85.7	-78.6	14	0.0	7.1	92.9	-92.9	14	35.7	21.4	42.9	-7.2

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフー9



3.建設業

受注状況DIは「3ヵ月前」と比べ、前回の△4.1から△29.2へ悪化幅が広がり、「前年同期比」も前回の△29.1から△50.0へ悪化している。外注発注量DIは「3ヵ月前」と比べ、4.2から△29.2とマイナス水準となった。「3ヵ月後」の予想DIは、受注状況が△37.5で前回の△16.7から悪化し、業況判断も△16.6で前回の△12.5から悪化した。諏訪地方の2020年4月～12月の新設住宅着工戸数は持家50戸、貸家105戸、分譲39戸、給与118戸で合計762戸となり、前年同期比で134戸、14.9%減少した。

●建築工事

諏訪地方の2020年12月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市20戸、諏訪市7戸、茅野市15戸、諏訪郡17戸の合計59戸だった。長野県全体の12月の新設住宅着工戸数は994戸で、前年同月比10.2%減少した。貸家は3ヵ月連続の減少、分譲は5ヵ月連続の増加となった。

●公共工事

2021年1月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、4件51百万円だった。また、市町村からの受注工事は、建築工事0件、土木・水道工事33件171百万円、その他工事8件15百万円だった。建設関連の公共工事の発注は減少しているが、国土強靱化計画の延長が決まった。

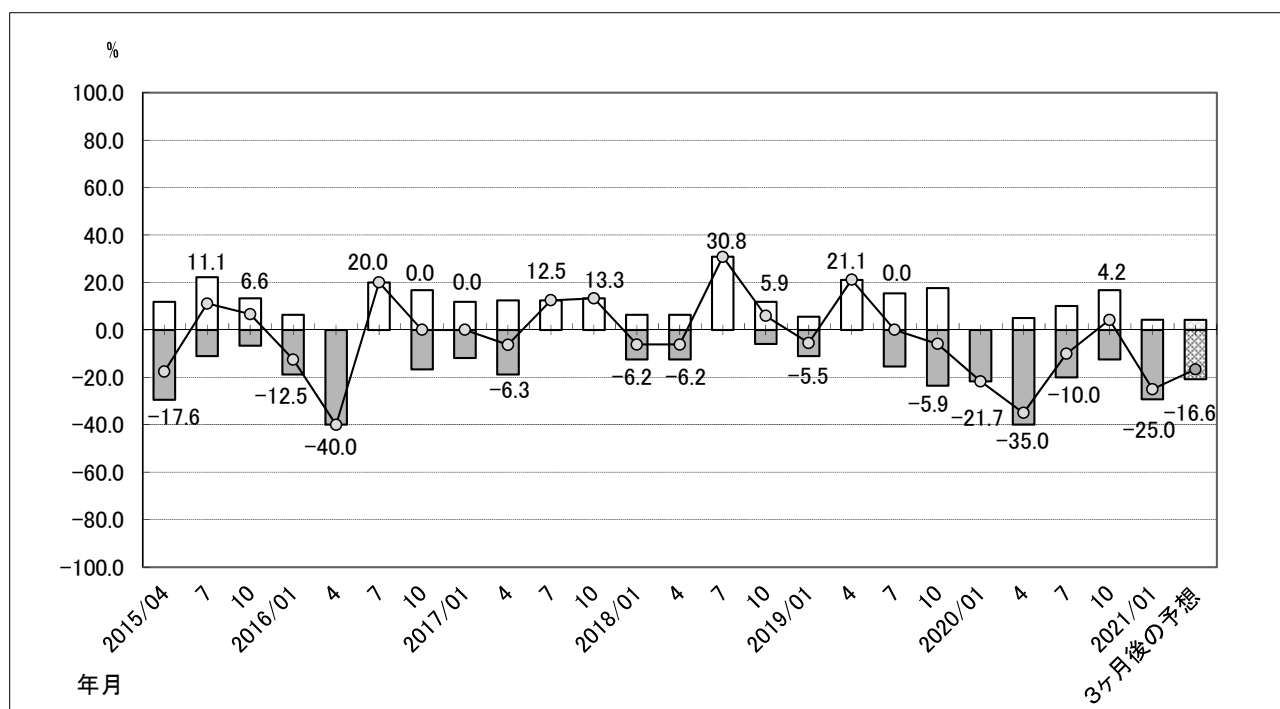
業況、受注状況、外注発注量

表－6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	24	4.2	66.7	29.2	-25.0	24	8.3	58.3	33.3	-25.0	24	4.2	75.0	20.8	-16.6
受注状況	24	12.5	45.8	41.7	-29.2	24	8.3	33.3	58.3	-50.0	24	4.2	54.2	41.7	-37.5
外注発注量	24	12.5	45.8	41.7	-29.2	24	12.5	37.5	50.0	-37.5	24	8.3	45.8	45.8	-37.5

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー10

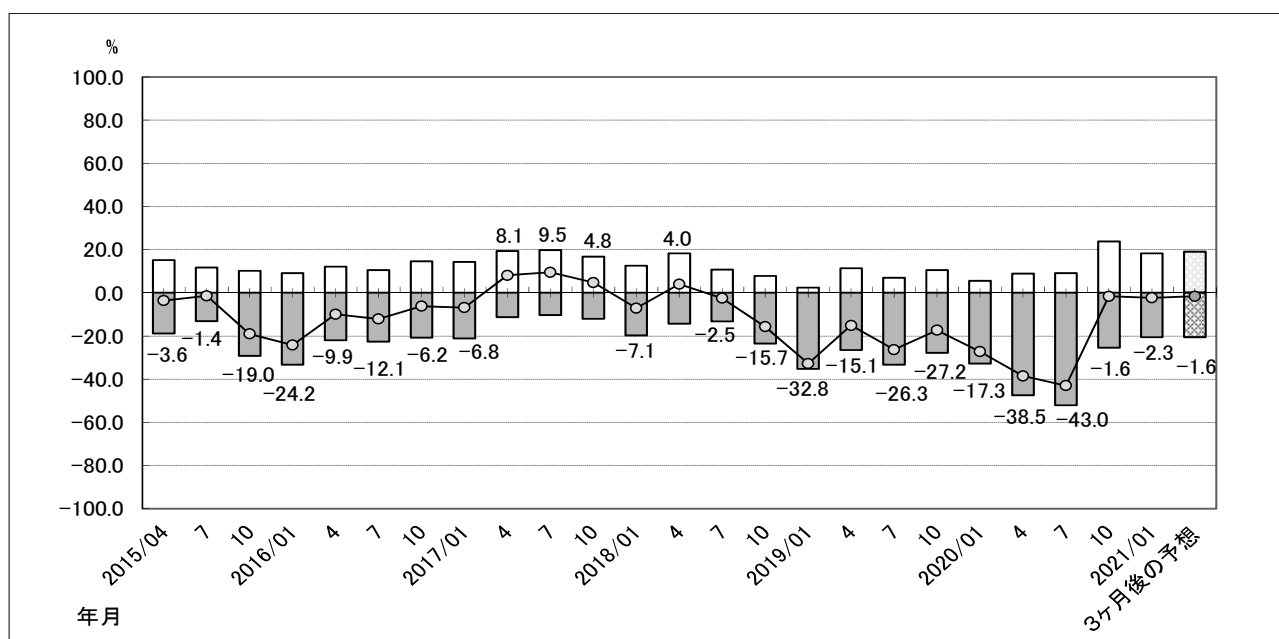


4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 13.2%、「悪化」企業 28.9%で、同DIは△15.7と前回調査時の 1.6 から悪化した。製造業は△2.3 で前回の△1.6 から小幅な悪化だが、非製造業は△39.5 で前回の 7.0 から 46.5 ポイント悪化している。回答全社の「前年同期比」は△29.9 で、前回の△43.7 より改善した。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が△1.6 で前回の△2.4 から改善し、非製造業も△12.7 で前回の△15.5 からやや改善している。回答全社では△5.6 となり、前回の△7.1 からわずかに好転予想が増えた。

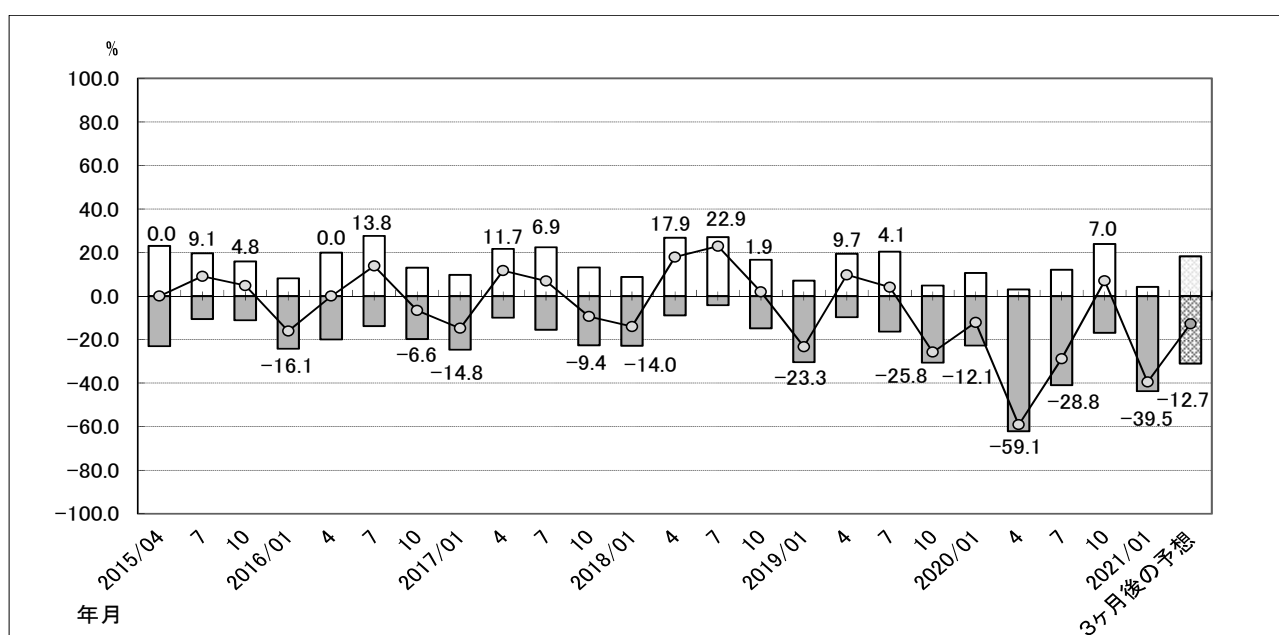
●製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少と労働力確保②商業も売上減少と労働力確保③建設業も売上減少と労働力確保④観光・サービス業は売上減少と資金繰りとなっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	124	78	17	16	13
単 価 引 下 げ	25	19	0	4	2
競 争 激 化	41	21	10	10	0
資 金 繰 り	44	24	5	6	9
人 件 費	48	22	12	7	7
労 働 力 確 保	65	34	16	13	2

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実 数	前年同期比
有効求人倍率【12月】	ハローワーク諏訪	1.13 倍	△0.28 ポイント
手形交換高 【1月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	2,777 枚	△1,673 枚
	金 額	3,183 百万円	△2,679 百万円
	うち不渡り 発生状況	枚 数	0 枚
		金 額	0 千円
車庫証明取扱件数【1月】(諏訪地方合計)		787 件	△8.1 %
新設住宅着工戸数【2020年4月～12月】(諏訪管内)		762 戸	△14.9 %

7.調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2020 年 1 月。
- ② 調査内容 「2020 年 1 月時点」の実績と、「3 ヶ月前」と「前年同期」の業績比較および「3 ヶ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約 130 社のヒアリング調査。
- ④ 回答企業数 197 企業。
- ⑤ 回答率 78.8%。

DI調査状況

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	126	33	24	14	197

新型コロナウイルスの第3波も抑えられつつありますが、経済統計を見ていると、感染を抑えようとして経済活動を抑制すると景気が急に落ち込み、逆にそれを緩めると経済活動が活発化するのが端的に読み取れます。感染拡大防止と経済活動というトレードオフのバランスをどうとるのが難しいところですが、今の政府でそれができるかは不安なところです。私は、第4波が来る可能性も低くないと思っています。

引き締めれば急速に落ち、緩めば伸びる経済

表を見てください。

前回のこの原稿でも触れましたが、表の最初の数字は経済の最前線で景気を敏感に感じる人たちから景況感を調査している「街角景気（景気ウォッチャー調査）」の数字です。景気を敏感に感じている人たちは、タクシーの運転手、小売店の店頭に立つ人、ホテルのフロントマン、中小企業の経営者たちなどです。この数字は、このような人たちに對し、内閣府が各地域で毎月調査しているものです。

この数字の見方は「50」が良いか悪いかの基準です。50を超えていると、景気が良くなっていると答えた人が多く、50以下なら悪化していると感じている人が多いということです。絶対的な景気の良さではなく、あくまでも方向感を表しているものです。

この数字を見ると、2020年2月以降、急速に悪化しているのが分かります。コロナの影響が景気に大きな影を落としたのです。とくに、第1回目の緊急事態宣言が出た4月、5月は、7.9、15.5と大きく落ち込んでいます。この数字は、2008年のリーマンショックやそれに続く世界同時不況、2011年の東日本大震災直後よりも悪い数字です。そこまで景況感は落ち込んだのです。

しかし、その後は大きく回復しています。とくに、10月は50を超えて54.5まで上昇しました。これはここ数年以上なかった数字です。GoToトラベルは7月から開始されましたが、10月1日からは東京発着が解禁になりました。それにより、実際に国内での移動、宿泊が増加しましたが、何よりも気持ちの緩みが大きくなったと思われます。緩んだことで移動や消費が増えたのです。

しかし、その緩みもあって感染が拡大しました。国も都道府県も「自粛」の呼びかけが強化されると、街角景気の数字は一気に落ち始めました。先ほども述べたように10月には54.5まで上昇していた景況感も、12月には一気に35.5まで悪化しました。そして、1月には11都府県に緊急事態宣言が出たこともあって31.2とさらに悪化しました。経済に圧力をかけると感染は減りますが、確実に景況感は落ちるのです。

名目GDPの55%程度を支える家計の消費支出全体でも同様の傾向が見られます。コロナにより低迷が続いていましたが、10月、11月は前年比プラスでした。しかし、感染が拡大し、政府や自治体が「自粛」を呼びかけた12月には再び前年比マイナスとなっています。

諏訪地域には関係の深い旅行取扱状況を見ても、そのことが読み取れます。4月、5月、6月は前年比90%以上の大きな落ち込みとなりましたが、それ以降は、悪いながらも徐々に改善し、10月以降は改善幅が拡大しています。しかし、12月にはまた悪化しました。

第4波に備える

2月中旬以降、医療関係者からワクチンが打たれ始めます。そして、4月以降には高齢者、基礎疾患のある方、それ以外の方という順でワクチンが順次打たれます。

一方、これまでの感染拡大の波は、おおよそ3から4か月程度の周期で起こっているの、4月から5月にかけて第4波が来る可能性も低くないと私は思っています。少なくとも国民の一定数にワクチンが提供されるまでは、感染再拡大の懸念があり、企業経営者はそのことを念頭に置いておいたほうがいいでしょう。資金繰りもしっかりと考えてください。



	街角景気	消費支出 2人以上世帯 前年比 (%)	旅行取扱 状況 前年比
2019年9月	46.6	9.5	3.6
10月	36.9	-5.1	-3.7
11月	38.8	-2.0	-2.3
12月	39.7	-4.8	-3.0
2020年1月	41.9	-3.9	-4.8
2月	27.4	-0.3	-18.9
3月	14.2	-6.0	-71.4
4月	7.9	-11.1	-95.5
5月	15.5	-16.2	-97.6
6月	38.8	-1.2	-92.9
7月	41.1	-7.6	-87.4
8月	43.9	-6.9	-86.3
9月	49.3	-10.2	-78.9
10月	54.5	1.9	-65.7
11月	45.6	1.1	-55.5
12月	35.5	-0.6	-64.6
2021年1月	31.2		
(出所)	内閣府	総務省	観光庁

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567